

日墨戦略的グローバル・パートナーシップ研修計画

広島大学教育学部

杉本 彩楓理

2019年9月

## *Mi Desafío*

早いもので、メキシコに来て2回目の研修レポートを書いています。前回書いていた頃に比べると少しはメキシコに慣れたかな、と感じています。

さて、今回のレポートの題名“MI DESAFÍO”ですが、これはスペイン語で「挑戦」という意味を持っています。今月、私は2つの「挑戦」をしたのでそれらについて書きたいと思います。

1つ目は、Xochimilco（ソチミルコ）にある La isla de las muñecas（人形の島）へ行ったことです。世界七大禁断の地と言われているこの人形の島ですが、なぜ禁断の地と言われているか、調べてみればすぐに納得できます。私は元々ホラーは大嫌いなのですが、せっかくメキシコにいるのだからと勇気を出して行ってきました。島に行くまでは、2時間ほど船に乗って行きます。とてもゆっくりとしたスピードで進むのですが、人形の島に行く為だけでなく、休日の楽

しみ方の1つとしてこの船は利用されています。個人で借りることができて、1つの船に約20人程乗れるので、船を使って誕生日パーティーをしている人もいました。



どこからか、マリアッチ（演奏団）も現れて、退屈することはなくこういった観光

の船の他にも、花輪やビール、焼きトウモロコシを売る小さな船も沢山いて、まるでお祭りのようでした。



また、ソチミルコの農業法として知られる

チナンパも見せてもらうことが出来ました。チナンパとは、湖底の泥を使った農業のことです。そのせいか泥をたくさん積んだ小さな船も時折見られました。

2つ目の挑戦は、日本語教師です。こちらに来てからの目的の1つとしてい

た日本語教育の場をずっと探していたのですが、ご縁があり、ある教室で日本語を教えることになりました。生徒は全員メキシコ人です。クラスでは、文法に加えて漢字も教えています。アルファベットを使うメキシコ人にとって、漢字はとても難しいようですが、意味を説明したり、例文を紹介したりしてなんとか分かってもらおうとしています。日本にいた時も日本語教室をボランティアとして行なっていたのですが、その際の生徒はほとんどが中国の方だった為、漢字への理解もとても速かったので、今回漢字圏ではない国で教えるということが私にとって1つの挑戦となっています。私自身、スペイン語もまだまだなので、生徒さんとはスペイン語と日本語を使って必死にコミュニケーションをとっています。これもまた自分にとってスペイン語の勉強だ、と言い聞かせて頑張っていることの1つです。

そして、いよいよ明日から期末テストが始まります。メキシコに来て最初のテスト。日本語教育もそうですがスペイン語の上達も大きな課題となっているのでしっかりと準備して臨みたいと思います。